



青森県感染症発生情報  
(2025年第44週)

<https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kenko/eisei/infection-survey.html>

I 第44週の発生動向 (2025/10/27～2025/11/2)

- インフルエンザについては、上北保健所管内に定點当たり報告数が**注意報レベル**となりました。また、すべての保健所管内で定點当たり報告数が増加傾向であるため、引き続き**新型コロナウイルス感染症**の予防も兼ねて、「手洗い・手指消毒」、「咳エチケット」、「室内の換気」等の基本的な感染対策の徹底をお願いします。
- 水痘については、三戸・八戸市保健所管内に定點当たり報告数が**注意報レベル**となりました。

※現在、国及び国立健康危機管理研究機構が警報・注意報の基準値について確認を進めているところですが、県の週報に記載する発生動向では、当面の間、従前の基準値を用いて注意喚起を行います。

<感染症の窓>

今週のテーマは「インフルエンザ」です。最終ページに掲載しています。

II 第44週五類定點把握対象疾患

※記載データは、速報値です。

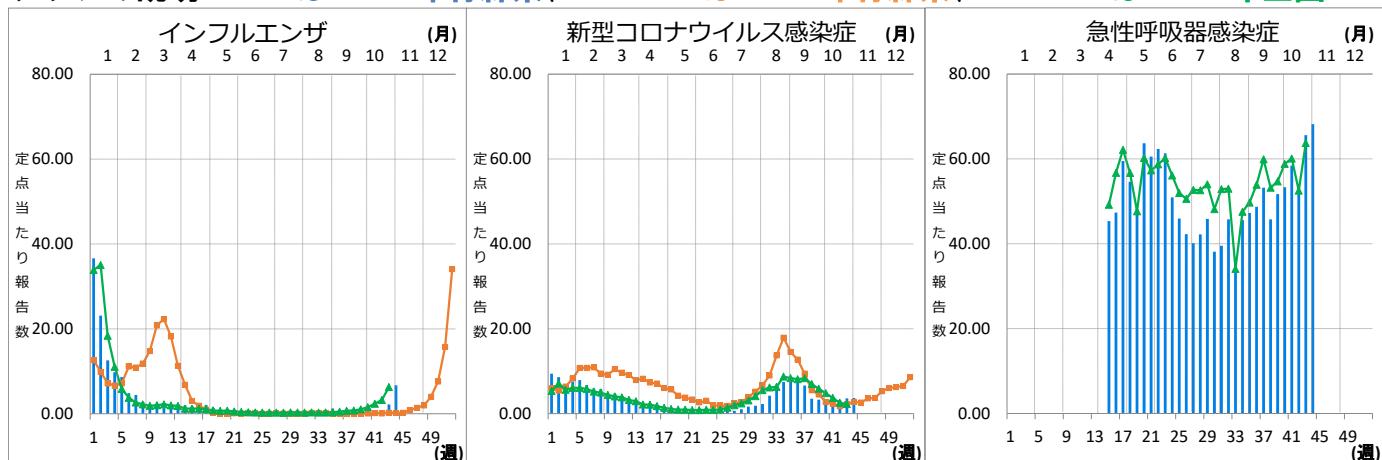
青森県内の保健所管内、定點(医療機関)数、警報・注意報については青森県の感染症発生状況TOPページをご覧ください。

■は警報、■は注意報。「空欄」：患者報告無し。

		東青 (東津軽+ 青森市保健所)		中南 (中南保健所)		三八 (三戸+ 八戸市保健所)		西北 (西北保健所)		上北 (上北保健所)		下北 (下北保健所)		青森県計		前週 からの 増減
		数	人/定點	数	人/定點	数	人/定點	数	人/定點	数	人/定點	数	人/定點	数	人/定點	
急性呼吸器感染症	インフルエンザ	58	5.27	40	4.00	54	5.40	35	5.83	144	16.00	17	2.83	348	6.69	234
	新型コロナウイルス感染症	30	2.73	66	6.60	31	3.10	16	2.67	17	1.89	32	5.33	192	3.69	5
	急性呼吸器感染症	1136	103.27	519	51.90	542	54.20	385	64.17	623	69.22	341	56.83	3546	68.19	136
小児科	RSウイルス感染症	2	0.33	3	0.50	3	0.43			1	0.17	1	0.25	10	0.29	-4
	咽頭結膜熱					3	0.43	1	0.20			1	0.25	5	0.15	3
	A群溶血性レサ球菌咽頭炎	2	0.33	10	1.67	5	0.71	3	0.60	2	0.33	5	1.25	27	0.79	2
	感染性胃腸炎	11	1.83	5	0.83	31	4.43	21	4.20					68	2.00	12
	水痘	5	0.83			10	1.43	1	0.20	4	0.67	3	0.75	23	0.68	12
	手足口病	3	0.50	1	0.17					1	0.17			5	0.15	4
	伝染性紅斑					3	0.43							3	0.09	-1
	突発性発しん	1	0.17			3	0.43							4	0.12	-2
	ヘルパンギーナ					1	0.14							1	0.03	-17
眼科	流行性耳下腺炎	1	0.17											1	0.03	-2
	急性出血性結膜炎														0	
	流行性角結膜炎			2	0.67									2	0.22	2
基幹	感染性胃腸炎(ウイルス)														0	
	クラミジア肺炎														0	
	細菌性髄膜炎														0	
	マイコプラズマ肺炎			1	1.00	1	1.00	4	4.00			4	4.00	10	1.67	3
	無菌性髄膜炎	1	1.00											1	0.17	0

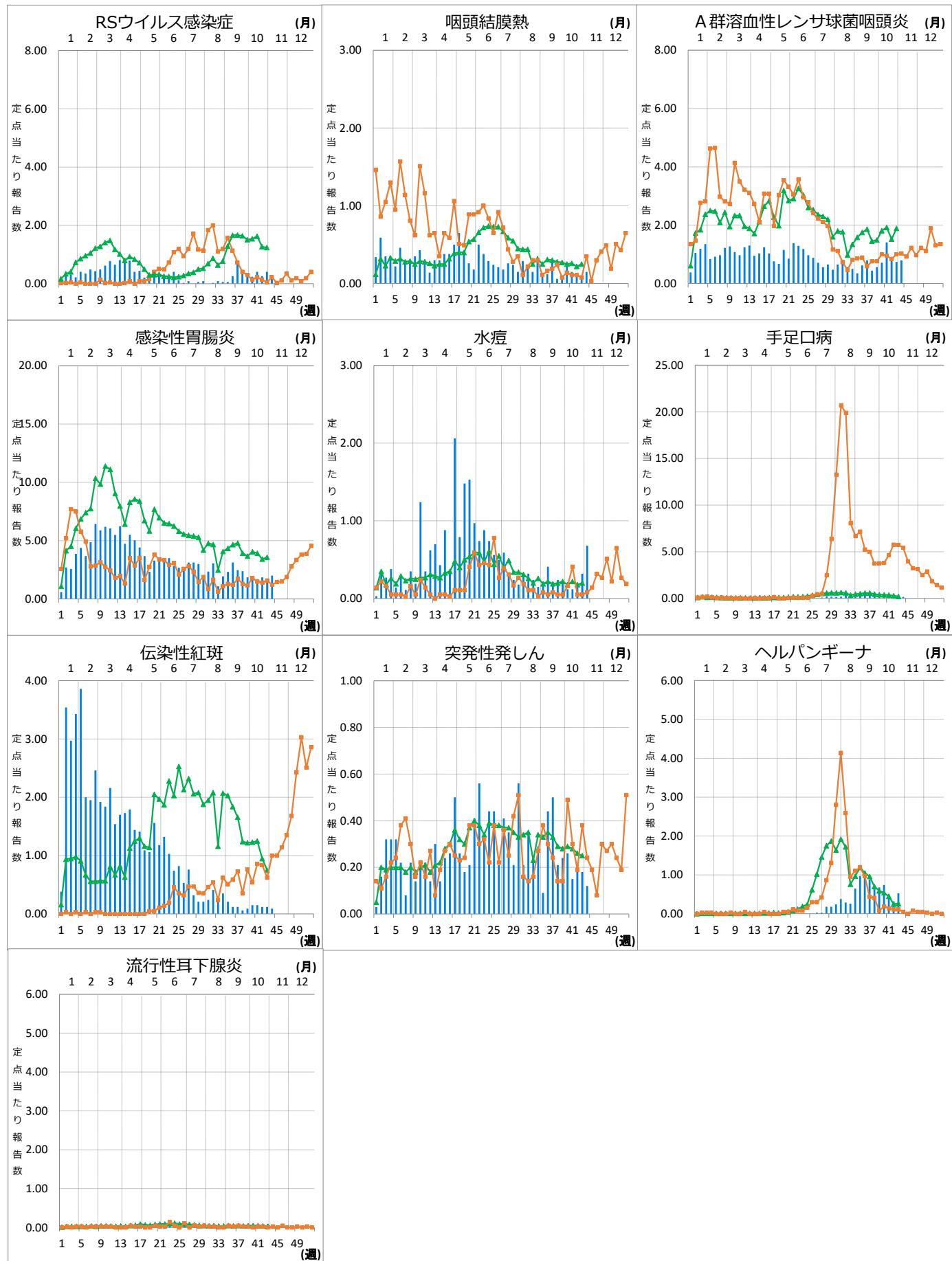
III 定點把握対象疾患週別推移 (急性呼吸器感染症定点) (2025年第44週、ただし全国は前週)

グラフの説明 ————— は 2025年青森県、—————■—————は 2024年青森県、▲————▲————は 2025年全国



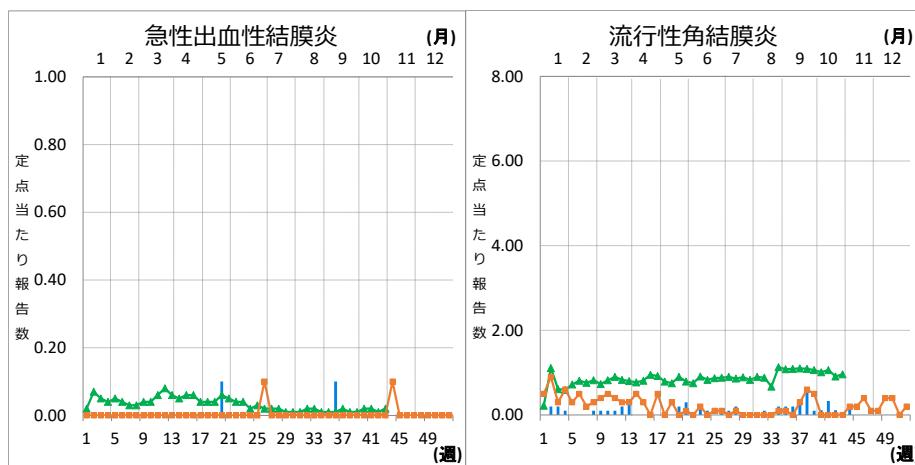
#### IV 定点把握対象疾患週別推移（小児科定点）（2025年第44週、ただし全国は前週）

グラフの説明  は 2025 年青森県、 は 2024 年青森県、 は 2025 年全国



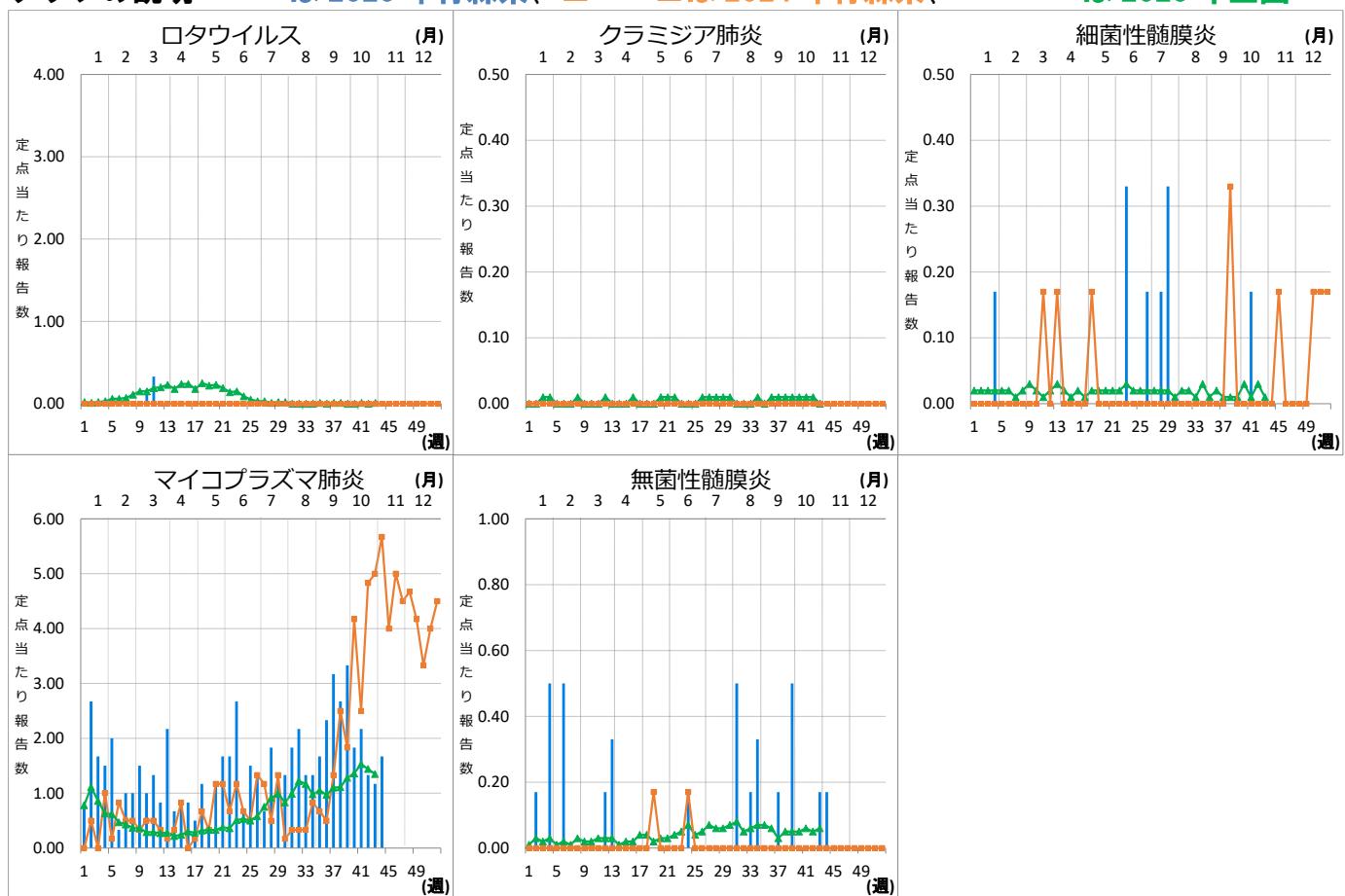
## V 定点把握対象疾患週別推移（眼科定点）（2025年第44週、ただし全国は前週）

グラフの説明  は 2025 年青森県、  は 2024 年青森県、  は 2025 年全国



## VI 定点把握対象疾患週別推移（基幹定点）（2025年第44週、ただし全国は前週）

グラフの説明  は 2025 年青森県、  は 2024 年青森県、  は 2025 年全国

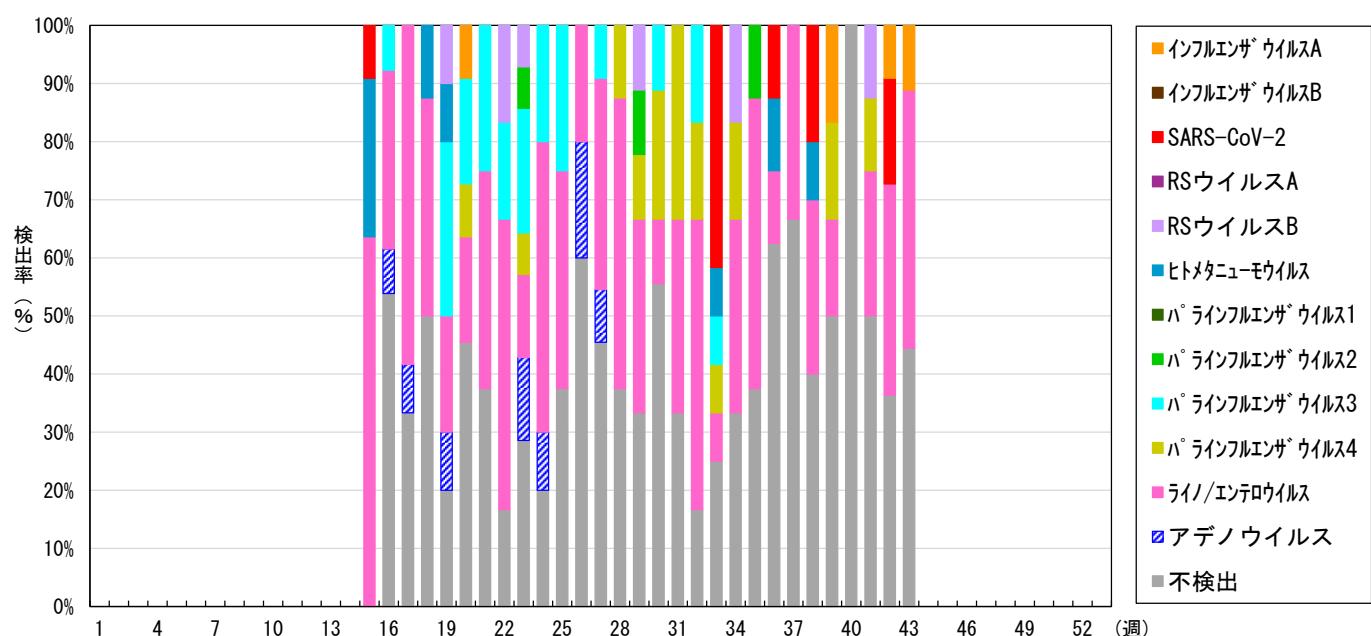


## VII 急性呼吸器感染症(ARI)病原体検出情報

### (1) 急性呼吸器感染症病原体定点からの提出検体数及び結果判明分 (2025年第37~44週)

急性呼吸器感染症	2025年							
	37週	38週	39週	40週	41週	42週	43週	44週
提出検体数	9	10	6	6	8	11	9	5
インフルエンザウイルスA	0	0	1	0	0	1	1	
インフルエンザウイルスB	0	0	0	0	0	0	0	
SARS-CoV-2	0	2	0	0	0	2	0	
RSウイルスA	0	0	0	0	0	0	0	
RSウイルスB	0	0	0	0	1	0	0	
ヒトメタニューモウイルス	0	1	0	0	0	0	0	
パラインフルエンザウイルス1	0	0	0	0	0	0	0	
パラインフルエンザウイルス2	0	0	0	0	0	0	0	
パラインフルエンザウイルス3	0	0	0	0	0	0	0	
パラインフルエンザウイルス4	0	0	1	0	1	0	0	
ライノ/エンテロウイルス	3	3	1	0	2	4	4	
アデノウイルス	0	0	0	0	0	0	0	
不検出	6	4	3	6	4	4	4	
検査待ち	0	0	0	0	0	0	0	5

### (2) 検出された病原体の週別推移 (2025年第15週~)



## VIII 全数把握対象疾患発生状況（第 44 週）

- ・結核(二類感染症)：青森市 1 人 (2025 年計： 98 人)
- ・つつが虫病(四類感染症)：八戸市 2 人 (2025 年計： 17 人)
- ・侵襲性肺炎球菌感染症(五類感染症)：上北 1 人 (2025 年計： 15 人)
- ・百日咳(五類感染症)：青森市 2 人、中南 1 人 (2025 年計： 744 人)

## IX 保健所管内別全数把握対象疾患発生状況（2025 年第 41 週～2025 年第 44 週）

週	東青 (東津軽保健所+ 青森市保健所)	中南 (中南保健所)	三八 (三戸保健所+ 八戸市保健所)	西北 (西北保健所)	上北 (上北保健所)	下北 (下北保健所)
41	結核2人 デング熱1人 クロイツフェルト・ヤコブ病1人 百日咳1人	腸管出血性大腸菌 感染症1人 百日咳2人	結核2人 腸管出血性大腸菌 感染症1人 カルバペネム耐性 腸内細菌目細菌感 染症1人 百日咳2人	百日咳1人	結核2人 百日咳1人	
42	結核1人 カルバペネム耐性 腸内細菌目細菌感 染症1人 後天性免疫不全症 候群1人	カルバペネム耐性 腸内細菌目細菌感 染症1人 百日咳2人	百日咳1人	腸管出血性大腸菌 感染症1人 レジオネラ症1人	腸管出血性大腸菌 感染症1人 レジオネラ症1人	
43	結核1人	百日咳2人	百日咳4人	百日咳1人	百日咳1人	
44	結核1人 百日咳2人	百日咳1人	つつが虫病2人		侵襲性肺炎球菌感 染症1人	

第 43 週に、百日咳の届出が中南保健所管内で 2 件、八戸市保健所管内で 1 件ありましたので追加しました。

## X 全数把握対象疾患発生状況（全国-青森県）（注：発生状況は速報値であり、国内で届出のあった疾患のみを掲載しています）

### 全国

（2025年第1週～第43週までの累計）

分類	二類	三類	三類	三類	三類	三類	四類	四類	四類	四類
疾病名	結核	コレラ	細菌性赤痢	腸管出血性 大腸菌 感染症	腸チフス	パラチフス	E型肝炎	A型肝炎	エキノコック ス症	エムポックス
累積報告数	11643	3	49	3596	27	8	481	115	26	6
分類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類
疾病名	オウム病	回帰熱	コクシジオ イデス症	重症熱性 血小板減少 症候群	ダニ媒介脳 炎	チクングニア 熱	つつが虫病	デング熱	日本紅斑熱	日本脳炎
累積報告数	9	6	6	179	2	20	107	142	588	2
分類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	五類	五類	五類
疾病名	ブルセラ症	ボツリヌス症	マラリア	ライム病	類鼻疽	レジオネラ 症	レプトスピラ 症	アメーバ 赤痢	ウイルス性 肝炎	カルバペネム 耐性腸内細菌 目細菌感染症
累積報告数	1	1	19	16	1	2024	47	373	199	1020
分類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	急性弛緩 性麻痺	急性脳炎	クリプトspo リジウム症	クロイツフェ ルト・ヤコブ 病	劇症型溶血性 レンサ球菌 感染症	後天性免疫 不全症候群	ジアルジア 症	侵襲性イン フルエンザ 菌感染症	侵襲性髄膜 炎菌感染症	侵襲性肺炎 球菌感染症
累積報告数	28	439	22	149	1153	702	31	556	69	2803
分類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	水痘 (入院例)	梅毒	播種性クリ プトコックス 症	破傷風	バンコマイシ ン耐性腸球菌 感染症	百日咳	風しん	麻しん	薬剤耐性 アシネットバク ター感染症	
累積報告数	548	11516	142	80	71	83843	10	231	9	

### 青森県

（2025年第1週～第44週までの累計）

分類	二類	三類	四類	四類	四類	四類	四類	五類	五類	五類
疾病名	結核	腸管出血性 大腸菌 感染症	E型肝炎	つつが虫病	デング熱	日本紅斑熱	レジオネラ 症	アメーバ 赤痢	カルバペネム 耐性腸内細菌 目細菌感染症	急性脳炎
累積報告数	98	36	1	17	1	1	9	1	9	1
分類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	クロイツフェル ト・ヤコブ病	劇症型溶血性 レンサ球菌 感染症	後天性免疫 不全症候群	侵襲性イン フルエンザ 菌感染症	侵襲性肺炎 球菌感染症	梅毒	破傷風	百日咳		
累積報告数	4	5	2	4	15	19	1	744		

## XI 病原体検出情報

※（ ）内は、検査材料及び検体採取日

報告はませんでした。

## XII 社会福祉施設等における感染性胃腸炎（疑い含む）の発生状況

「社会福祉施設等における感染症等発生時に係る報告について」（平成18年2月22日付け厚生労働省健康局長、医薬食品局長、雇用均等・児童家庭局長、社会・援護局長通知）に基づく、青森県内の社会福祉施設等における感染性胃腸炎（疑いを含む）の報告件数及び発症者数は次のとおりです。

2025年第44週

報告週	施設種別	発症者数	管轄保健所
第44週	報告なし		

2025年報告件数及び症者数

施設種別	月(週)	月(週)												計(施設別)
		1月 1-5週	2月 6-9週	3月 10-13週	4月 14-17週	5月 18-22週	6月 23-26週	7月 27-31週	8月 32-35週	9月 36-39週	10月 40週	11月 41週	12月 42週	
介護・老人福祉関係施設	件数	1	4	4	4	1	0	0	0	0	0	0	0	14
介護・老人福祉関係施設	発症者数	7	70	69	78	11	0	0	0	0	0	0	0	235
児童・婦人関係施設等	件数	4	10	8	7	1	3	1	1	0	0	0	0	35
児童・婦人関係施設等	発症者数	74	228	136	128	25	50	22	13	0	0	0	0	676
障がい関係施設	件数	0	2	2	1	1	0	1	0	0	0	0	0	7
障がい関係施設	発症者数	0	37	25	10	5	0	11	0	0	0	0	0	88
その他施設	件数	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
その他施設	発症者数	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	10
計(月別)	件数	5	16	14	12	3	4	2	1	0	0	0	0	57
計(月別)	発症者数	81	335	230	216	41	60	33	13	0	0	0	0	1009

## 感染症の窓

### インフルエンザ

インフルエンザは、インフルエンザウイルスに感染することで起こる病気で、日本では、例年12月～3月に流行します。

普通の風邪と同じようにのどの痛み、鼻水、咳などの症状がみられますが、38℃以上の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛などの全身症状が比較的急速に現れるのが特徴です。また、小児では急性脳症を起こすことがあるので注意が必要です。

インフルエンザについては、第36週から翌年第35週までの1年間をインフルエンザシーズンとしており、2025/2026シーズンにおける全国及び青森県の状況は図のとおりとなっています。インフルエンザの流行入りの目安は、定点当たり報告数が1以上とされており、全国では、第39週に1.04となり流行入りとなりました。昨年より1か月程度早く、過去20年間では2番目の早さです。青森県においても、第41週以降、増加が続いているので、今後の動向に注意が必要です。

インフルエンザの主な感染経路は、飛沫感染と接触感染です。予防には、「正しい手洗い・手指消毒」、「咳エチケット」、「室内のこまめな換気」などが有効です。併せて、体の抵抗力を高めるために、十分な休養とバランスのとれた栄養摂取を日ごろから心がけましょう。

また、インフルエンザに対してはワクチンがあり、感染後に発症する可能性を減らすことや、もし発症しても重症化を予防することができますので、流行前の、早めのワクチン接種が有効です。

さらに、高熱が続く、呼吸が苦しいなど具合が悪い場合は、早めに医療機関を受診しましょう。

○詳しい情報はこちらをご覧ください。

☞[インフルエンザの感染を防ぐポイント「手洗い」「マスク着用」「咳エチケット」（政府広報オンラインHP）](#)

